

快適な住みよいまちをめざして

古賀市し尿処理施設 うつぎえん 海津木苑

海津木苑施設開所以来、市内の小学4年生が施設を訪れ、し尿処理（排育）について学んでいます。



古賀市で発生したし尿は

うつぎえん 海津木苑（し尿処理施設）・水再生センター（下水処理場）・おやまだ 小山田甕水センター（農業集落排水施設）のいずれかの施設で、安全・安心できれいな水へと処理されています。

海津木苑施設啓発のながれ

古賀市の初代し尿処理施設は、昭和 39 年に衛生的観点から伝染病撲滅をもくてきに、古賀町・福岡町・津屋崎町で清掃施設組合を設立し、古賀町内に建設されました。



当時のし尿処理施設は、伝染病を防ぐことを最優先にしていたため、施設から発生する臭気対策が遅れ、施設近隣にはし尿による臭気が発生（漏洩、まん延、広がって）していました。この臭気は、子ども達の間でいじめや差別を助長する原因となり、し尿処理施設の近隣に住んでいた子ども達は、学校で友だちからのいじめの的になってしまいました。本来、子ども達にとって「安心して楽しく学べる学校」が「安心して楽しく学べない学校」という状況をつくり出してしまったのです。

人間にとって、「食べること」「排泄すること」はあたり前の営みです。

しかし、し尿処理施設から発生する臭気から施設に対する「偏見」が生まれ、当時の古賀町では大きな人権問題へ発展していきました。

このことにより、初代し尿処理施設は、開所からわずか 15 年の昭和 54 年に閉鎖されることとなりました。

初代し尿処理施設の閉鎖後、古賀町から発生するし尿は福岡市へ委託し、海洋投棄処理を行っていました。しかし、長期的に委託することは難しく、古賀町単独で町内に新しいし尿処理施設を建設することとなりました。

古賀町は、建設予定地を 5 箇所選定し協議を行いましたが、新建設予定地区との調整はなかなか前に進みませんでした。

福岡市との委託契約期限が迫る中、現在の海津木苑がある地域へお願いに行きました。最初は猛反対でしたが、協議を何度も重ねていく中で「生きていく上で、私たちにとって欠かすことのできない大切な施設」として、地元住民のご理解とご協力を得ることができ、昭和 58 年 6 月に古賀町で 2 代目のし尿処理施設「海津木苑」が開所されました。

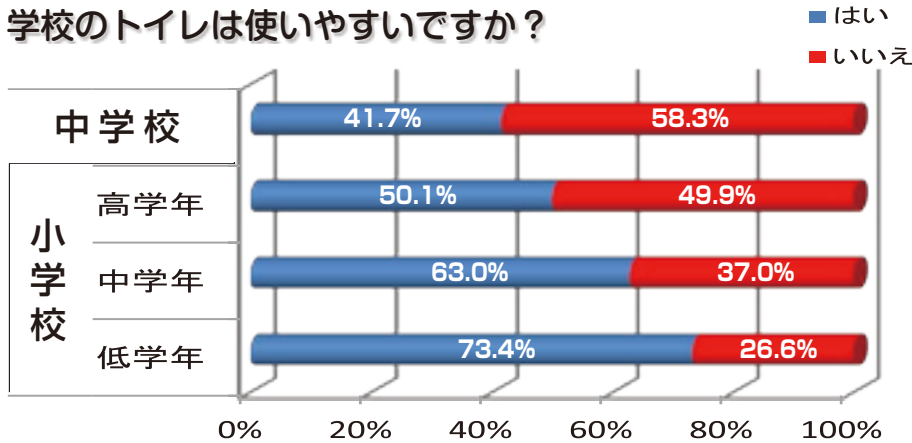
このような経緯を踏まえ、「海津木苑」では、臭気などの技術的な対策はもちろん、し尿処理施設に対する偏見等を解消していくために、施設開所以来、小学 4 年生の施設見学をはじめとするさまざまな啓発事業を行ってきました。

子どもたちに実施したアンケート結果から小・中学校の2割近くの児童生徒が学校で「うんち」ができていないという実態が、明らかとなりました。

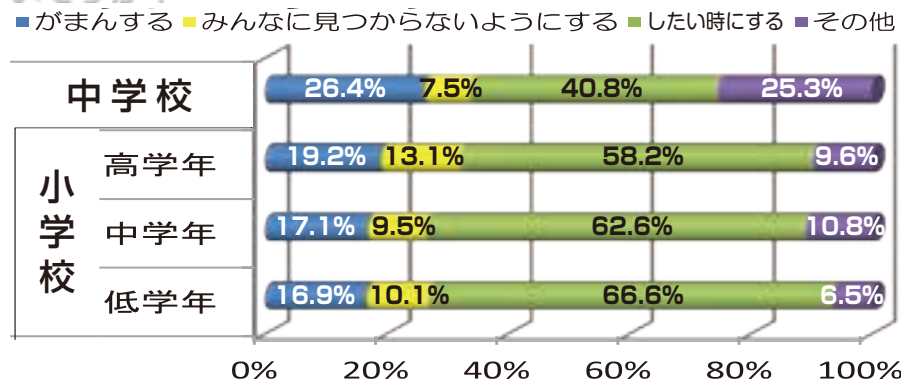
古賀市の小中学生たちのトイレ事情

アンケート実施年月：2011年（平成23年）12月

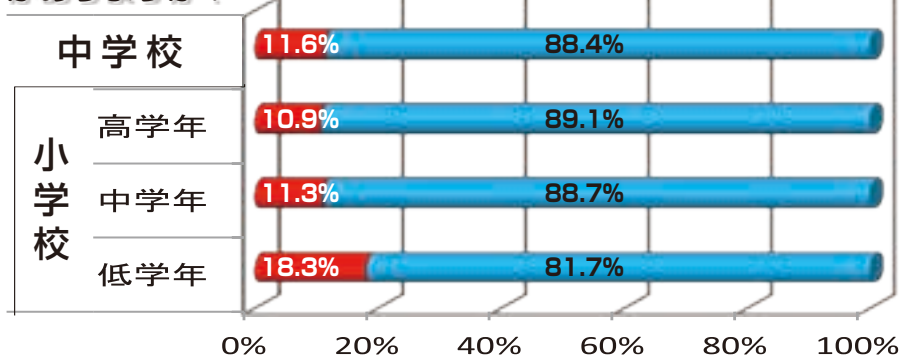
学校のトイレは使いやすいですか？



あなたは学校でうんちをしたくなったらどうすることが多いですか？



友だちがうんちをしているときや、したときからかわれたり、いやなことをされているところを見たことがありますか？



■小学生のときは、学校で「うんち」をしたことがあると回答した児童が多いのに対し、中学生になると半数以上の生徒が学校でうんちをしない傾向があります。

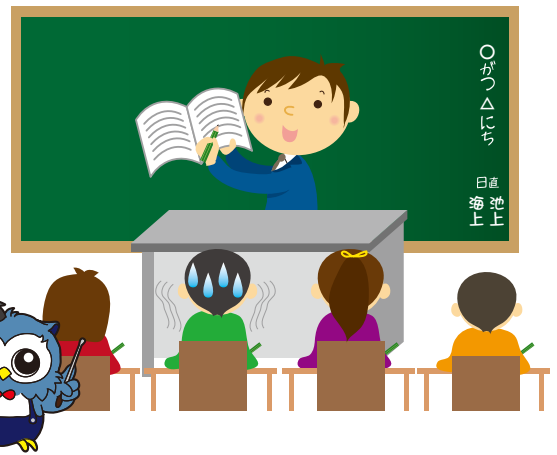
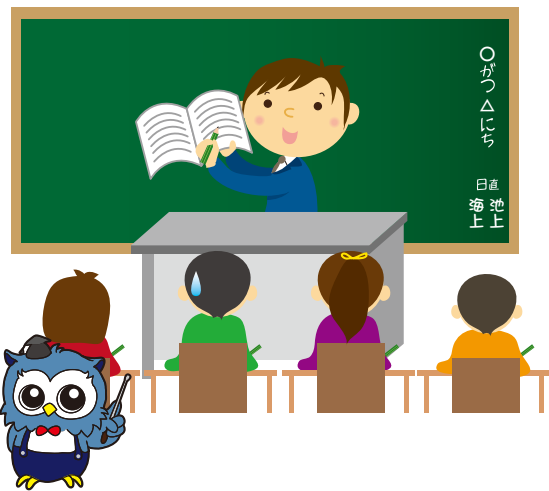
■学年が上がっていくにつれて、学校のトイレは使いやすいものではなくなっています。これは年齢が上がるにつれて周りの視線が気になり、残念ながら排泄行為をマイナス行為に捉えている傾向が見受けられます。

すべてのいきものは **食べて→栄養を取り込み→排泄する**



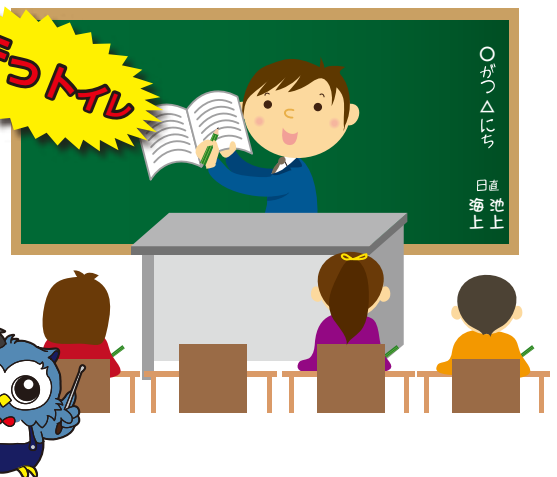
急に授業中におしっこや**うんち**をしたくなったら、**あなたはどうしますか？**

がまんすると授業に集中できなくなります。さらにはがまんをつづけると、大変な病気になってしまうこともあります。**それでもあなたはがまんしますか？**



おしっこや**うんち**をしたくなるのは、生きている証です!!
がまんせず、トイレに行きましょう!!

いつでも、トイレに安心して行けるっていいですね!
がまんしないでいいんですよ!!



はい いく 『排 育』

子どもたちは、家庭ではスムーズに「排泄」ができていますが、一歩外に出ると「排泄」がスムーズにできていない現状があります。

これは「排泄」に対しての負の価値観が学校などの集団生活の中で、自然発生しているからではないでしょうか？

蔓延した負の価値観から、ますますトイレにいけないという悪循環に陥っている子どもたちを減らすために「排育」を行っています。

海津木苑では、

子どもたちの排泄に対する負のイメージを見つめ直し、学校などでの排泄がスムーズにできるように「排育」と呼び、し尿処理施設の啓発と並行して、さまざまな取組を行っています。



排育のねらい

- ・ 食べたら『出る』ということ、みんなで受けとめ認め合う。

【なかまづくり】

- ・ うんちをすっきり出すために、バランスよく食べる。

【食生活と健康の管理】

- ・ 心地よくうんちができる環境をつくる。(保護者・地域・学校・行政等と共働の取組)

【共働の取組】

子どもたちに伝えたいこと

学校でうんちをすることは、

恥ずかしいことではないよ！

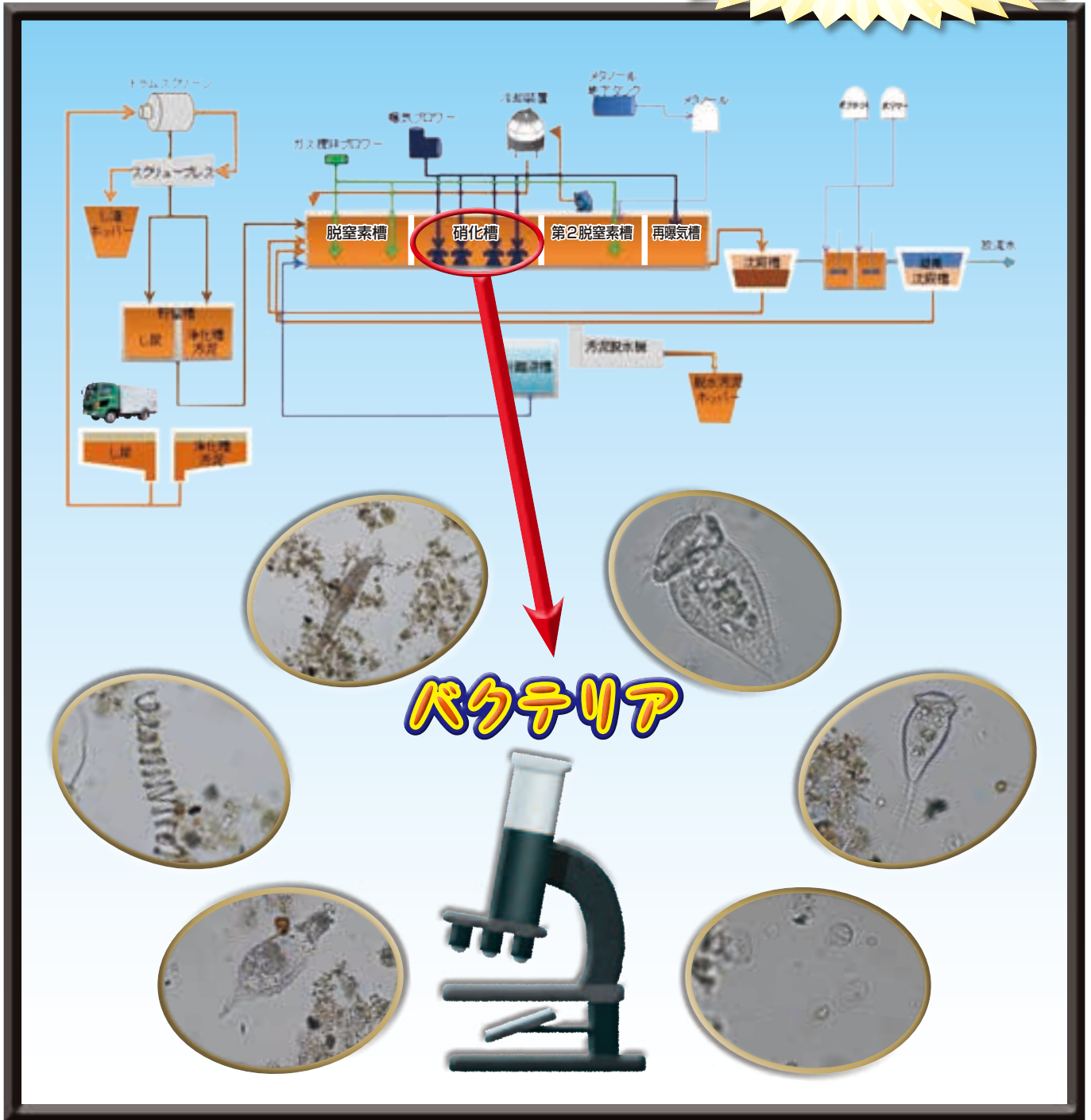
うんちは、体の調子を教えてくれる大切なものだから、我慢せずにすぐにトイレにいこうね！

うんちに行く友だちをからかうなんて絶対にしてはいけないよ！



海津木苑の主役は

バクテリア



海津木苑ではバクテリア（微生物）が、し尿や浄化槽汚泥を食べて、水をキレイにしてくれています。

海津木苑のしごと

毎日バクテリアの体調などを調べる水質試験を行い、空気の量や水温を調整し、水槽内の環境を作っています。

ホントの 排せつに関する嘘のようなお話



ホントの

排せつに関する嘘のようなお話



一般の家にはトイレがなく、住民は「おまる」を使用して、一杯になると窓から外へ投げ捨てるのが習慣になっていた。



街中にうず高く積もった汚物を避けるために、ハイヒールやブーツなどの丈の高い靴が考案されたと言われています。



中世の作法書に、「尿意を感じたらすぐさま放出すべし」と書かれていたそうです。

その時に、立ったまま廊下や部屋の隅、庭の茂みで用を足しやすいようにとの配慮から生まれたのが、このフープスカートと言われています。



日傘は、道路を歩いていた時、上から降ってくる排泄物が直にかぶらないよう、中世のヨーロッパで流行したものだそうです。

昔から排せつ行為に関するいろんな努力がされ現在に引き継がれています。

学校で
小はできるが
大できません

安心は、
クラス友の
『行っトイレ』

胸はって
トイレ行けよと
大人たち

いじめっ子
トイレで友を
からかう子

川柳
?

古賀市まちづくり 出前講座!

お届けします。

地域やグループの学習会などに是非ご利用ください。

出前講座メニュー

☆古賀市のし尿処理施設について

し尿処理のながれ&施設建設経緯のおはなし

☆「排育」について

子どもたちにスポットをあて、どこでも（学校等）子どもたちが「安心」して排泄ができるよう、市が現在すすめている取組のおはなし

申し込み・お問い合わせ

古賀市役所 総務部 コミュニティ推進課（市役所第2庁舎2階）

TEL 942-1165 FAX 942-1291

Eメール commu@city.koga.fukuoka.jp

古賀市海津木苑

TEL 944-1030 FAX 609-9015

Eメール utugi@city.koga.fukuoka.jp

ご利用できる方：市民または市に通勤・通学されている方等
（概ね10人以上の団体やグループ）

実施会場：古賀市内（申込される団体でご準備ください）

古賀市まちづくり出前講座はほかにもたくさんの講座があります。
メニュー表は、古賀市公式ホームページからダウンロードすることができます。